

滋賀県保健医療計画における二次医療圏域のあり方に対する意見 一部抜粋

〔湖北圏域〕

平成29年10月 意見照会

※いただいたご回答すべて、「現状を維持すべき」のご意見でした。

再編すべきかどうか	維持すべき理由	【湖北・湖西のみ】 圏域を維持した場合、どのような対応が必要か
1 2.現状を維持すべき	<p>湖北は滋賀県全体の約25%の面積がある。他圏域への移動に1時間以上の距離にもなる。高齢化の現在、患者の流れとして適切とは思わない。基幹病院までのアクセスの時間として考慮すべきである。</p> <p>流出入患者20%以上について、その原因は慢性疾患患者の流出であり、その問題の解決を考える計画であるので、それがある程度解決した暁にはこれは問題ではなくなる。</p>	<p>広大な医療圏であるので、慢性期患者を現在の医療圏の中で解決すべき。</p> <p>地域医療構想の本来の目的である「重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう」とあるように、本来湖北医療圏で慢性患者が適切な医療・介護が提供されるような施策が行われるべきである。</p> <p>三次救急医療施設30分到達圏の拡大を目指す現在にあって、30分圏の早期の実現は困難であっても目標を「救急4圏域で再編」とは考えるべきではない。</p>
2 2.現状を維持すべき	<p>圏域として考えられるのは湖東との合併だが、余呉・西浅井の過疎化の進む県最北部または旧伊吹町からなる山間部に生活を置く住民にとって、これ以上南に医療拠点が移るのには数多くの問題が生じるものと思われる。</p> <p>更なる在宅医療の推進をめざし、会員に対する研修会の開催や他職種との連携をより密にすることで、求められる役割を果たせるよう、鋭意努力していく。</p>	<p>更なる在宅医療の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人材確保(有資格者) ・在宅訪問薬局の確保
3 2.現状を維持すべき	<p>救命分野の自己完結率が高い</p> <p>市立長浜病院に回復期病床ができた</p> <p>人口は少ないが圏域面積が一番広いので、湖東と一緒にしても遠い。</p> <p>交通の便も悪く、車などの移動手段がない。</p>	<p>慢性期病床ももっと作ったほうがよい</p> <p>圏域内の回復期リハビリテーション病棟、療養病棟の利用率が上がることで、湖東・東近江圏域への流出が減少すると思われる。</p>
4 2.現状を維持すべき	<p>これまで、湖北保健医療圏における医療提供体制の充実と地域完結型の医療提供に努めてきた。保健所の管轄、医師会、病床数の区割りなどは二次医療圏を基本としていることから、圏域を変更することはこれまでの継続性が損なわれ、地域住民サービスの低下につながると懸念される。</p> <p>医療のほか、保健・福祉・消防及び広域行政においても、概ね当該圏域を単位として機能しており、地域住民の地域的な一体感があり、それらを踏まえて十分検討し、調整する必要があると考える。</p>	<p>湖北保健医療圏においては、急性期医療は医師の努力により一定程度充足できている。しかし、慢性期医療を担う医師の確保が難しく慢性期患者の受入れ体制を整えることが難しい状況となっているため、地域医療構想を踏まえ、湖北医療圏における慢性期機能の充実が必要と考える。</p>

5	<p>2.現状を維持すべき</p> <p>回復期リハビリテーション病床や地域包括ケア病床が整備されるなど、地域ニーズに応じた形で病床が再編されており、残る慢性期病床を整備することで流出患者割合はかなり減少するものと見込まれる。</p> <p>患者の流入率についても病床整備により一定の改善が見込まれるものと考えられる。主たる原因は地理的なものであり、当圏域に特殊な医療機能を備えない限り流入率が一定値まで上昇するとは考えにくく、圏域の再編を行ったとしても、再編前における他圏域の流入率を低下させるだけとなる。なお、当圏域において、新たに特殊な医療機能を備える必要はないものとする。</p>	<p>圏域全体の病床の割合を再編し、慢性期病床を確保することで患者の流出率を抑制する</p> <p>慢性期を担当する医師の確保</p>
6	<p>2.現状を維持すべき</p> <p>医療圏のみの再編には意味がないと思われる。医療圏を再編したとしても病院の数、規模、機能が変わらなければ患者の流れも変わらないのではないかと。</p> <p>医療圏の再編を考えるのであれば、併せてその中にある病院の数、規模、機能の再編、それに対する大学の意向、地域の医師会の関わりも含めて確立されたものにならなければ意味がないと思われる。</p>	<p>圏域内で医療が完結することは理想的と言えると思うが、昨今の医療提供体制においては大学の医師の引揚げによる診療科の閉鎖、後継者がいない開業医の閉院等により圏域内における医療は将来的に非常に不安定なものとする。</p> <p>今後の湖北圏域における人口は減少する一方で、人口構成による医療需要の変化にも柔軟に対応できる医療提供体制の構築が必要であり、病院同士の機能的な連携を強めることで医師不足等へも対応し、実質的な統合から段階的に医療圏の再編に繋がるように検討すべきとする。</p>
7	<p>2.現状を維持すべき</p>	<p>湖北圏域は、自己完結型が特徴。回復期リハビリテーション病床、地域包括ケア病棟ができるなどして、患者が在宅に帰る準備は以前よりも充実しているが、在宅サービスでリハビリの専門職が関わるサービスが不十分と思われる。退院時のADLを在宅で維持することが難しい現状。</p> <p>医療から介護・生活へスムーズに移行できるためにも、在宅(地域)でのリハビリ受皿の充実が望まれる。</p> <p>地域の医療と介護の連携は取りやすくなっている。</p>
8	<p>2.現状を維持すべき</p> <p>圏域が広く現状においても全域をカバーする医療体制の維持は困難であり、これ以上の圏域拡大は、医療サービスの著しい低下を招く可能性がある。特に救急(小児を含む)においては、特定の病院へこれまで以上に患者が集中し、医師の疲弊や許容量の超過が生じ、緊急時に適切な治療を受けられなくなる可能性がある。</p> <p>圏域統合はその他の医療体制にも様々な影響を及ぼすと思われる。長浜米原休日急患診療所は、湖北医師会等の協力のもと安定的な運営を維持できているが、圏域統合により、医師会の組織が複雑化することで、医師配置等の調整が困難になる可能性がある。</p> <p>今後の方向性の検討においては、患者の流入・流出の割合だけで判断するのではなく、山間僻地における医療需要や地理的事情等を十分に考慮し、住民が安心して医療を受けられる体制が維持できるよう配慮いただきたい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・湖北医療圏の回復期及び慢性期病床の稼働率向上 ・地域偏在のない医療サービスの提供を目指した県市町の連携による医師確保対策 ・幅広い医療への対応ができる総合診療専門医の養成と指導医の育成 ・誤嚥性肺炎等の廃用症候群の在宅患者のレスパイト入院などの受け入れ体制の整備 ・へき地を持つ医療圏の保健所機能の強化 ・医療の現状や市民の役割に関する周知及び啓発